

第42回

講演会資料

日時

2022年8月27日(土) (講演会: 15:05~16:35)

会場

広島大学教育学部 K102 教室 (オンライン環境併設)

演題

時代を切り拓いてきた家庭科

～家庭科研究からみた過去・現在・未来～

講師

多々納 道子 先生 (島根大学名誉教授)

【講師プロフィール】

多々納道子 (たたの みちこ)

広島県生まれ

広島大学大学院教育学研究科教科教育学専攻修士課程修了 教育学修士

現在 島根大学名誉教授

松江市教育委員会教育委員

公益財団法人 しまね女性センター理事長

島根銀行監査役

【主な著書・論文】

- ・「自立した消費者の育成—エシカル消費を通して—」
日本家庭科教育学会中国地区会編『家庭や地域と連携・協働する家庭科授業
—21世紀型スキルに向き合う—』(共著) 教育図書 2020
- ・『実践的指導力をつける家庭科教育法』(共編著) 大学教育出版 2018
- ・「中学生の自立を目指した指導の工夫」日本家庭科教育学会中国地区会編
『アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発「深い学び」に向けて』
(共著) 教育図書 2017

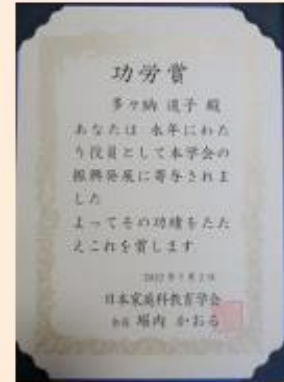
2022年 8月27 (土)

日本家庭科教育学会功労賞受賞 (65回大会)

第42回日本家庭科教育学会中国地区会
於 広島大学教育学部

時代を切り拓いてきた家庭科

—家庭科研究からみた過去・現在・未来—

島根大学名誉教授
多々納道子

1.はじめに—自己を高めるために

家庭科に関わる教育・研究活動を推進する組織

- 日本家庭科教育学会
- 日本家庭科教育学会中国地区会
- 日本家政学会
- 日本家政学会中国・四国支部会
- (一社)日本家政学会 家政教育部会
- 生活やものづくりの学びネットワーク
- 全国家庭科教育協会 (ZKK)
- NPO法人家庭科教育研究者連盟 (家教連)
- 大学家庭科教育研究会
- 各都道府県、市町村ごとの小・中・高等学校研究会

属している組織に☑

組織に属することにより、孤立化防止、会員同士の情報交換、切磋琢磨、学習・研究、教育実践の取り組みを推進する重要な機会となる。

2. Q1 あなたと家庭科との関わりの中で、重要な出来事は?、3つあげて下さい。

多々納のA1

- ・高等学校まで家庭科が男女必修なったこと。
- ・講義中に学生から、「家庭科を女子だけが学んでいる時代があった。」ことを知らなかったと言われたこと。
- ・日本経済新聞が、家庭科男女必修20年の年に、家庭科を男女が学んできたその効果を集記事にしたこと。

3.家庭科のあゆみを俯瞰し、成果の検証

(1) 1872(明5) 学制…近代学校教育制度の始まり

- ・ **男女共通教育**
- ・ 身分、階層、性別を問わない一般普通教育
- ・ 尋常小学は「男女共必ス卒業スヘキモノ」国民皆学

表1 明治期の小学校就学率 (%)

(年)	男子	女子	平均
明治6	39.9	15.1	28.1
10	56.0	22.5	39.9
25	71.7	36.5	55.1
30	80.7	50.9	66.7
40	98.5	96.1	97.4
45	98.5	97.6	98.2

女子の就学率を高めるため、裁縫科設置の効果

(2)明治中・後期から裁縫科・家事科が女子用教科として徐々に設置…その陰の部分

・1872(明15)に文部省は学制以降実施してきた男子と対等の教育目標を婦徳の涵養教育にシフトし、女子の役割を担う教育課程・内容とした。

・1891(明24)「中学校令中改正」高等女学校規定が詳細に定められた。

全科目中、家事・裁縫科は全体の1/4と最も多くの時間を占め、その分、普通教育の程度は低くなった。

…普通教育における男女の能力差の要因
女子に対する教育要求に合致

出典) 多々納道子・伊藤圭子編著：実践的指導力をつける家庭科教育法、大学教育出版、2018

第2章 家庭科のあゆみ

(3)家事科・裁縫科による良妻賢母教育

- ・第1次世界大戦による経済変動の影響下で国民生活が窮乏し、**生活改善**が重要性 ← 理科的な家事科
- ・栄養学、衛生学などの自然科学の発展の成果を家事科に取り入れることが求められた。
- ・一方、1918（大正7）、臨時教育会議*
「女子教育では、家族制度に適する素養を養うこと、高等女学校では理科的な家事教育をすること」
- ・裁縫科では、**和服から洋服**への流れが教材構成や指導法に影響を与えた。例、小学校の教材…ズロース（下着）の製作、ミシンの使用、洋服の製作
- ・一方で、技能の習得を重視し、主婦準備教育としての傾向を強める。



(4)木下竹次の生活教育（大正自由教育の推進者の一人）

奈良女子高等師範学校教授兼附属小学校主事（校長）
<教育思想>
裁縫科「裁縫は普通の衣類の選択、調整及び消費に習熟せしむることに依りて**裁縫心**を発展せしめ以て自己の進歩発展を図ることを要旨とする。」
家事科「**他学科における各種の生活を統一して人生の発展を図るところの教科である。**」
学習の中心に生活をおく。
裁縫心となづけた態度を養うことによって自己の進歩・発展を図ることで、**心身陶冶上の価値を認める。**
従って、**男女ともに学ぶ必要がある。**

著書：「学習原論」「学習各論」「裁縫の創作的学習」

「新裁縫学習法」「裁縫新教授法」「裁縫学習法の建設」 学習方法は、学習環境を重視

合科学習
合科学習において、衣・食・住などを取り上げ授業実践
その理論や実践は、校内の研究雑誌「学習研究」において公表される。

全国から、毎日何十人という授業参観者があった。

裁縫科と家事科は心身陶冶上の価値があるととして、**男女とも学ぶ重要性**を指摘。

教育課程上は女子のみ必修。
そのため、合科学習（児童の生活を対象）において、実践する。
教材例：夏を涼しくすごくすくふう（すまいと衣服の工夫）
：元気にくらす（食品の栄養、食生活の工夫）

木下竹次研究（同窓の先生方との共同研究）

・被服教育に関する史的研究—木下竹次の裁縫学習法の一考察、
教育学研究紀要第21巻、中四国教育学会（1976） 単著

・木下竹次の裁縫教育の成立と展開—「裁縫新教授法」「新裁縫学習法」「裁縫の創作的学習」及び「裁縫学習法の建設」について、
教育学研究紀要第26巻、中四国教育学会（1981）

・木下竹次の裁縫教育の成立と展開—成立期における裁縫教育の教育的価値、
教育学研究紀要第27巻、中四国教育学会（1982）

・木下竹次の裁縫教育の成立と展開—評価活動について、
教育学研究紀要第29巻、中四国教育学会（1984）

・木下竹次の裁縫教育の成立と展開—裁縫教師の養成について、
教育学研究紀要第30巻、中四国教育学会（1985）

・木下竹次の裁縫教育の成立と展開—合科学習について、
教育学研究紀要第32巻第2号、中四国教育学会（1987）

奈良女高師附小の家事科、裁縫科の担当教員のお二人

・家事科は満上泰子先生
島根大学教授、教育者、人類生活者
日本の底辺—山陰農村婦人の生活（1958）、「底辺」ブームを起こす
退官後は、全国の小学6年生を対象に「生きる・生活する」と題する出前授業を続けた。

・裁縫科は中沢か寿め先生
広島大学教授
<研究論文&図書>
・体験に依る裁縫学習指導法、東洋図書(1931)
・四つ身単衣の発展的指導案並其実際、学習研究13(11) (1934)
・裁縫新教授書の吟味、学習研究12 (4) (1933)
・昭和12年の裁縫教育、学習研究16 (12) (1937)
・裁縫指導の一経験、学習研究17(10) (1938)

4. 男女平等教育

第二次世界大戦の終結 連合軍による占領下
1945（昭和20.12）文部省 女子教育刷新要綱

- ①男女間における教育の機会均等
 - ②男女間における教育内容の平準化
 - ③男女間の相互尊重の促進
- 男女平等教育

民主的国家的建設に貢献する教科 ← 社会科（社会）
家庭科（家庭）

小学校…5、6年で男女とも学習
中学校…職業科（農業、工業、商業、水産、家庭）内容を選択
高等学校…男女とも自由選択

戦後初めての学習指導要領家庭科編 1947 (昭22) 小・中・高一貫した学習指導

はじめのことば

「家庭科すなわち**家庭建設の教育**は、各人が家庭の一員となり、自分の能力にしたがって、家庭に、社会に貢献できるようにする**全教育の一分野である。この教育は家庭内の仕事や、家族関係に中心を置き、各人が家庭建設に責任をとることができるようにするのである**」

目標

- ①家庭において**自己を成長**させ、また家庭及び社会の活動に対し自分の受け持つ**責任のあること**を理解する。
- ②**家庭生活を幸福にし**、その充実向上を図っていく常識と技能を身につけること
- ③**家庭人としての生活上の能率と教養**を高めて、いっそう広い活動や奉仕の機会を得るようにする。

(1) 実際の家庭科は？

- ・小学校…教材例
5年女子 前掛けの製作 6年男子 掃除用具・台所用の製作
下ばきの製作 家庭用品の製作・修理
シャツの製作
- ・中学校…教科名が変遷し、男女別学になる
職業、職業・家庭、技術・家庭（男子向き・女子向き）
- ・高等学校…男女とも自由選択のため、履修者が減少
危機感を持った家庭科関係者が「家庭一般」の女子必修を請願

1956 (昭和31) 女子必修が望ましい

1960 (昭和35) 原則として女子必修

1974 (昭和49) 女子4単位必修になる

男子は体育系の教科を学習

男子で家庭を選択していたものは学校数の比率で7.51%、生徒数で1.01%

1985 (昭和60) 5月30日、外務委員会、文教委員会連合審査会報告

(2) 京都府での男女共修の取り組み

一 京都府における歩みと実践

京都府…京都府立高等学校において「家庭一般」2単位男女必修を実現 1973 (昭和48)

実現できた要因

- ・家庭科教員が男女必修の重要性を周囲の教員に訴え、教育委員会の理解を得、府の教育課程を編成する。
- ・高校3原則…小学区制、総合性、**男女共学**
- ・男女が学ぶ家庭科の内容を検討し、**指導資料**を作成し、実践する。

森幸枝：「男女で学ぶ新しい家庭科 京都における歩みと実践」、**ウイ書房 (1986)**

高校家庭科自由選択時代の男子履修状況

- ・各学年に家庭一般を配置、希望者が履修
 - ・夜間の定時制高校の生徒たちは、生活を営む上で家庭科の履修が有効
- (堀川高校定時制の安田雅子先生談)

表2 京都府立高校の「家庭一般」(4単位)履修者数例

	37年度	38	39	40
A校	34人	1人	24	15
B校	36人	46	15	33

森幸枝：男女で学ぶ新しい家庭科 京都府における歩みと実践、ウイ書房

(3) 男女必修「家庭一般」2単位 目標

生活の営みを科学的に解明し、民主社会における家庭生活の課題にこたえ得る力をみつける。

1. 社会の変遷が、家族形態ならびに家庭の機能に及ぼした影響について明らかにする。
2. 家庭経済の実態を明らかにし、その問題点をとらえ、解決していく力をつける。
3. 衣食住の生活に関する科学的知識と、その基礎的技術を学ぶ。

(4) 男女必修「家庭一般」2単位 指導内容

I. 生活と家族

1. 家庭生活の現状、2. 家族の歴史とその機能、3. 家庭生活と法律、4. 家庭生活と職業、5. 保育

II. 生活と経済

1. 家庭経済の現状、2. 収入について、3. 支出について、4. 物価問題、5. 消費者問題、6. 社会保障

III. 生活と衣食住

1. 食生活、2. 衣生活、3. 住生活

男女共修 「家庭一般」指導資料

京都府立高等学校家庭科研究会 指導資料作成委員会(1973)

家庭一般指導資料（教師用）



京都府の男女共修家庭科の取り組み



(5) 多々納の家庭科教育研究者連盟の夏季研修講座参加体験記 (1973年夏) 修士課程の1年生

京都府で男女共修家庭科の実施が決定された年の8月、京都の寺院を会場に研修講座が開催された

全国から多数の家庭科関係者が参加

真夏の暑い京都で、さらに暑い熱気に包まれ、男女が共に学ぶことへの期待が高まる。

京都府の家庭科指導主事の森幸枝氏の講演

- ・家庭科教員の連携と協力による取り組み
- ・他教科教員や管理職の理解、民主的な教育観の共有
- ・男女が共に学ぶ家庭科のための指導内容、方法の研究
- ・男女が学ぶという土壌が残されていた（自由選択制）

学習方法例、家族・家庭に機能を班学習で

<家庭科学習の初めに>

なぜ、何を、どのように学ぶのか

- ・家庭生活の現状・・・アンケートとその考察
- ・現状の問題点に気づかせる（班学習・発表）

表3 取り上げる内容

現代の家族と家庭生活	現代家族の特徴 家庭生活の機能 家事労働
家族の移り変わり	家族の構造・形態・機能の変化 旧民法・現民法による家族像の違い

森幸枝：男女で学ぶ新しい家庭科 京都府における歩みと実践、ウイ書房

班学習の課題（アンケート集計考察から）1班5～6人）

- 1.核家族の長所・短所
- 2.子どもの数2～3人が圧倒的に多い理由（班員の父母は何人きょうだいか出し合おう）
- 3.母親の就労
 - (1)年々、家事労働以外の労働をする母が増える理由
 - (2)(1)が家庭生活に及ぼす影響
 - (3)内職・パートを正規の職業と比べた利点・欠点
- 4.家庭生活での男女差別の具体例
- 5.男性が家事労働を全くしないことについての意見
- 6.女生徒に比べ男生徒が家事労働に参加していないことについての意見
7. 男性・女性に生まれ変わりたい理由

森幸枝：男女で学ぶ新しい家庭科 京都府における歩みと実践、ウイ書房

(6) 男女共修家庭科を実践する上での課題

- 1.家庭科の内容・・・何を指導するのか？ 指導資料を作成
- 2.指導者・・・教員は男子生徒を指導するについて、抵抗はないのか？ 男子を指導した経験から、困難ではない
- 3.男子生徒が率直に学ぶのか
 - ・各高校に男女共修家庭科の授業参観希望者が全国から殺到

Q.授業参観をした先生方は、生徒に男子が学ぶことをどう思うのか？と質問

A.生徒達は、家庭科を男女で学ぶことは当たり前。逆に、何故そのような質問をするのか？と質問する。

森幸枝：男女で学ぶ新しい家庭科 京都府における歩みと実践、ウイ書房

(7)男女共修家庭科の実態の探求

京都府立高校の生徒を対象にアンケート調査の実施
(1974) 多々納の修士論文の1章を構成

京都府立田辺高等学校生徒を対象

○男女共修について

賛成 男子61.2%
女子94.8

賛成の理由

- ・家庭生活は男女の協力によって成り立つ
- ・家庭生活の知識や技術は、男子にも必要
- ・家庭生活を社会とのかかわりの中でとらえることは男女とも重要

25

5.家庭科の男女必修

(1) 高等学校家庭科の男女必修

1979年に国連による「女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約」を批准するための法的整備が求められた。その結果、1989年3月告示の学習指導要領で

「家庭一般」「生活技術」「生活一般」から1科目4単位を選択必修とした。

小学校から高等学校まで男女とも
学ぶ家庭科の実現

26

(2) 女子差別撤廃条約、男女雇用機会均等法等の条約や法律の内容を**実行する役割を担う**

ー「男は仕事、女は家庭」という男女による性別役割意識の変革

ー「男も女も仕事も家庭も」を実現できる意識と実行力

- ・女性活躍推進法(2015)、改正女性活躍推(2022)
- ・ジェンダーギャップ指数(2022)、116位/世界146国主要7か国(G7)の中で最も低い理由
- 政治と経済分野…家庭生活の役割が足を引っ張る

27

(3) 家庭科男女必修20年の成果

日本経済新聞(夕刊)2013年6月12日

中学・高校で家庭科が男女必修になり約20年が過ぎた。「男子厨房に入るべからず」の時代は遠くに消え去り、調理や裁縫など家事だけでなく、保育や介護なども家庭科で体験するようになった。より実践的な授業内容にすることで、家事分担などができる男子を育て、少子化対策などに役立てる狙いだ。生徒の意識も変わってきた。



富山県立砺波工業衣高校



埼玉県立浦和高等学校

28

「男も家事」当たり前前の時代に！

・現代の子どもたちにとって家庭科を履修するのは当たり前。ただ、家庭科の授業数は減少傾向にあり、担当教師も減っている。

・佐賀大学文化教育学部の中西雪夫教授は「家庭科は人間関係や家族関係など、生活に必要なことを学ぶ教科。その重要性を理解し、授業時間を増やしてほしい」と訴える。

・今後は小中高の学習内容を連携させるなど、限られた時間をうまく使うことが課題となりそうだ。

29

(4)令和時代の学問として一番重要なのは「家庭科」馬場渉氏(パナソニックビジネスイノベーション本部長)

2019年10月9日、日経xTECH EXPO 2019
特別講演「HomeXで実現する 次の100年の暮らし」

「家庭科は衣食住はもちろん、時間やお金の使い方、地域社会、環境、エネルギー、介護、子育て、家族と家庭など、非常に多岐にわたる生活そのものの学習体系になっています。パナソニックの『暮らしアップデート』というビジョンからすると、家庭科こそが我々が今やろうとしている領域だと痛感しています」(馬場氏)

暮らしを良くするためには、小学校や中学校で習う家庭科レベルのことを日常の生活習慣に落とし込むことで、豊かで幸せかつ健康に暮らせるというわけです。

30

(5) 消費生活・環境、持続可能な社会の構築 SDG s の取り組み

消費者市民社会において自立した消費者の育成

- ・エシカル消費（倫理的な消費）
- ・18歳成人年齢の移行による法教育
- ・SDG s

家庭科における授業の提案

- ①エシカル消費で世界を変えよう
ーエシカル消費を可視化するエシカルポイントの工夫
- ②中学校家庭科の方教育と消費者教育の実践
- ③計画的な金銭管理（島根大学教育学部消費者教育研究会）



研究成果

21

(6) 高校家庭科の新しい内容ー資産形成についての学習

学習指導要領 家庭基礎 2022年～、

C 持続可能な消費生活・環境

(1) 家計の構造や生活における系税と社会との関わり、家計管理について理解すること。

家計管理については、

生涯を見通した経済計画を立てるには、…リスクへの対応を取ることが必要である、**預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の**特徴（メリット、デメリット）、**資産形成の視点にも触れるようにする。**

金銭・経済に関する教育が、将来に備えた資産形成、

投資に踏み込んだ…家庭科への期待大

指導教員の研修、サポートが重要

22

6. これからの家庭科

歴史は、未来を照らす鏡である。

家庭科のあゆみを振り返ることによって、これからの家庭科が果たすべき役割を理解できる。

家庭科を男女とも学び、家庭生活を営む能力を身につけることによって、**社会の在り方を大きく変え、又さらに変えようとしている。**

その際に、**社会の変化に従うというよりも、生活が社会をリードできるように、議論や研究を進めたい。**

授業実践からみると、**現行の学習指導要領を尊重しつつ、次の学習指導要領を提案できるように、一人一人が研究を重ね、連携したいものである。**

23